

東陽病院 鈴木健士 医師

健康への

メッセージ

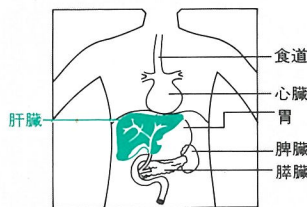
シリーズ 39

肝ガンの話

ガンの大部分は
慢性ウイルス性肝炎

適量の飲酒・休肝日で
肝臓をいたわる生活を

光町のみなさんこんにちは。今回は体の中では最も大きな内臓、肝臓のガンについてお話したいと思います。肝臓というみなさんがまず考えるのは、お酒との関係ではないかと思えます。お酒を飲み過ぎれば肝臓に負担がかかるのも常識としてよいでしょう。過ぎればアルコール性脂肪肝となり、さらに進めば肝硬変になってしまうこともあります。しかし今の日本の肝硬変は慢性ウイルス性肝炎によるものがほとんどで、アルコール性のものは少ないようです。だからといってお酒を奨励するわけではありませんが、深酒をしないで適量に抑えること、週に一日は休肝日(お酒を飲まない日)をつくるのが守れば大きな心配はないかと思えます。ただし、血液検査で肝炎ウイルスが陽性だった人は慢性肝炎か、もしくは今後慢性肝炎になってしまう可能性がありますので、お酒は止めた方がよいでしょう。



さて肝ガンについてですが、このガンは胃や大腸や肺のガンと大きく違う点があります。それは、なる可能性が高い人と低い人がはっきり別れているのです。それは慢性ウイルス性肝炎があるかどうかという違いです。肝ガン

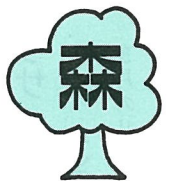
には肝炎ウイルスが大きく関わりがあって、肝ガンの人の大部分はこのウイルスの反応がみられます。つまりウイルス反応のない全く健康な肝臓にガンが出来る率はかなり低いと言えます。肝炎ウイルス反応が陽性の方もおられるかと思いますが、がっかりする必要はありません。ウイルスが体の中に入ってもそれが慢性肝炎を必ず起こすとは限りませんし、起きるとしても長い時間がかかるのが普通です。通常は慢性肝炎から肝硬変に進行した後、その内の何割かにガンが発生するので、この間は10〜13年かかるとされています。まず慌てずに定期的に肝臓の超音波検査を受けて、小さい段階で見するように努めることが重要です。もし肝ガンが発見された場合でも、肝臓の機能がある程度保たれていれば、他のガンより治療法にいろいろな選択肢があります。手術や肝臓に血を送る血管から薬を注入する治療、肝臓に直接針を刺してガンを潰してしまう治療などがあります。特に後の二つの治療は体に負担があまりかからず、高齢者でも可能な治療です。これらの治療により肝臓のガンはたとえ手術が出来なくても数年間ガンをコントロールしていくことが可能な状態となってきました。(最も長い人では、10年以上元気で過ごされている方もいます)ただ病気を恐れずによく知って、きちんと定期的に検査を受けること、肝臓の機能が悪くならないようお酒を飲まずに節制することが重要なのです。

1996 貸出しトップ10

一般書

児童書

作品	著者	No.	作品	著者
ソフィーの世界	ヨースタイン・ゴルデル	1	ぐりとぐら	中川李枝子
脳内革命	春山茂雄	2	おばけがぞろぞろ	ささきまき
弟	石原慎太郎	3	エルマーのぼうけん	ルース・スタイルス・ガネット
ふたり	唐沢寿明	4	おおきなおきなおいも	赤羽末吉
神々の指紋	グラハム・ハンコック	5	きかんしゃやえもん	阿川弘之
恋	小池真理子	6	バーバちゃんのおきやくさま	神沢利子
そういうふうにてきている	さくらももこ	7	おやすみみみみずく	バット・ハッチンス
記憶の中の殺人	内田康夫	8	ぞうのホートンひとだすけ	ドクター・スース
マザコン刑事とファザコン婦警	赤川次郎	9	はらぺこあおむし	エリック・カール
マークスの山	高村薫	10	モーモーまきばのおきやくさま	マリー・ホール・エッツ



ほんの

＝町立図書館＝
☎043311



◎ 休館日
(特別整理期間)
2月3日(月)〜17日(月)
図書館では2月3日(月)から2月17日(月)まで、館内のすべての資料の整理点検作業を行うため、休館とさせていただきます。ご不便をおかけしますがご協力をお願いいたします。